

福井県公害センター年報

第 11 卷

1 9 8 1

Annual Report
of
The Environmental Pollution Research Center
of Fukui Prefecture

vol. 11

1 9 8 1

福井県公害センター

は　じ　め　に

ここに昭和56年度の年報をお届けする。

ここ1・2年，マスコミ等から伝えられる公害問題は，極度に少なくなったように思われる。また，県などで受付けている公害苦情件数も年ごとに漸減しつつある。環境汚染・公害問題は，もう終ったとみていいものであろうか。たしかに，硫黄酸化物による大気汚染や主な河川での水質は改善されたといえる。

しかしながら，近年いわれている閉鎖性水域の富栄養化の問題や苦情の多い騒音，生活雑排水，空かに代表されるごみ処理等々の都市・生活型公害はいうに及ばず，今後の問題としてのエネルギー転換による大気汚染，その他未解明な未規制物質，更に工場・事務所・農林業関係からは一般家庭まで含め，大気に，水域に排出されている多種多様な汚染因子を含んだ化学物質等を考えるとき，中には環境へ排出後100年以上も経過しなければ人の健康なり，生活環境への影響が出現しない汚染因子があるとの説もあるようなので早くこれらの解明に取り組むことが今日的課題でなかろうか。

「文化のふるさとづくり」を県政の基軸とする本県にあっては，誇りうる風土，県民性などとともに，これらの環境汚染のない若越の自然環境の伝承をめざし，21世紀への出発と願っている。

本報に，三方五湖の富栄養化対策の一環としての調査研究，未規制物質に係る調査等の一端を報告させて頂いているが，これらを手がかりとして今後とも，よりよい環境へ，地道な一步一步を進め，科学的知見の蓄積に努めたいと考えている。本報について，各位の卒直な御批判，御教示を賜われれば幸いに存じます。

昭和57年7月

福井県公害センター

所長 牧 野 道 夫

目 次

1 運 営 概 要

1. 沿 革	3
2. 機 構	3
3. 業 務 内 容	3
4. 人 員	4
5. 業 務 分 担	4
6. 予 算	6
7. 事業実施概要	7
(1) 公害技術会議	7
(2) 公害技術研修	7
(3) 市町村職員技術研修	7
(4) 研究発表会	7
(5) 大気汚染防止対策	8
(6) 水質保全対策	56
(7) 施設見学者	68
8. 備品整備状況	68
9. 誌上および学会発表抄録	68

2 調査研究報告

1. 幹線道路周辺における炭化水素成分調査（第4報）	71
2. 環境大気中の未規制物質に関する調査研究（第3報）	79
3. 大気汚染による金属腐蝕調査（第10報）	90
4. 漆器業排ガス実態調査（第2報）	100
5. 硫黄酸化物濃度の経年的変化について（第4報）	109
6. 硫黄酸化物のバックグラウンド濃度に関する一考察（第4報）	127
7. 福井・坂井地区の窒素酸化物の分布および濃度変動に関する要因の検討（第4報）	134
8. オキシダント濃度上昇時の事例について（昭和56年度）	142
9. 公共用水域水質データの電算処理	150

10. 大気汚染常時監視オンライン・システムの機能向上について(第3報)-----	156
11. 三方五湖の富栄養化に関する研究(第1報)-----	167
12. 三方五湖の富栄養化に関する研究(第2報)-----	192
13. 三方五湖の富栄養化に関する研究(第3報)-----	197
14. 環境排出油の識別に関する基礎研究(1)-----	202
15. 着色水に関する調査研究(第1報)-----	207
16. 着色水に関する調査研究(第2報)-----	211
17. 硫化物イオン存在下のリン酸態リンの定量-----	215
18. 湖の窒素の分析法の検討-----	218
19. 公共用水域の1/100N過マンガン酸カリウム分解によるCOD測定-----	225

7	環境調査課	7
1	環境調査課	(1)
1	環境調査課	(2)
7	環境調査課	(3)
1	環境調査課	(4)
8	環境調査課	(5)
67	環境調査課	(6)
80	環境調査課	(7)
80	環境調査課	(8)
80	環境調査課	(9)
80	環境調査課	(10)

15	環境調査課	1
17	環境調査課	2
18	環境調査課	3
19	環境調査課	4
20	環境調査課	5
21	環境調査課	6
22	環境調査課	7
23	環境調査課	8
24	環境調査課	9
25	環境調査課	10